

2024年 4月 29日

2023年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・共同研究 () ・個人研究 (○)	
研究代表者 (所属・職・氏名)	家政学部 児童学科 助教 小澤 由理	
研究課題名	1930年代の日本の保育者養成におけるシカゴ留学とその歴史的意義	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	2023年4月1日 ～ 2024年3月31日	

研究実績の概要(1)

本研究は、戦前におけるキリスト教系の保母養成校の女子留学の歴史的意義を探求することを目的としている。とりわけキリスト教系保母養成校におけるアメリカ人女性宣教師や日本人保育者のアメリカでの学びと人的交流の実態の一端を把握することをねらいとしている。そのフィールドとして、本研究では、多くのミッション系保育者養成校の関係者が学んだアメリカ・シカゴにあるエリザベス・ハリソン (Elizabeth Harrison 1849～1927) の創設した保母養成校を取り上げ、留学がもたらした日米間のトランスナショナルな交流について考察を図った。

1. ハリスンの学校に学んだ日本からの留学生のリストの作成

エリザベス・ハリソンの保母養成校(以降、学校)は、1886年に始まるフレーベル主義に基づいた保母養成校である。創立者のハリソンは19世紀後期に始まったアメリカ幼稚園運動をリードした人物で、幼稚園管理職の育成など保母の養成を積極的に推進したパイオニアである。彼女の保育の考え方は、彼女のかつての同僚であった日本の神戸の頌栄幼稚園の創設者アニー・ハウを通じて日本にもたらされ、以後キリスト教系保母養成の在り方に大きな影響を与えた。(橋川：2003、永井 2016、野尻：2022) ハリスンの学校が日本からの留学生や訪問者を受け入れた状況については、学籍名簿が掲載された Course Catalogue (1913～1939)、学内誌 New Bulletin (1912 Vol.1 No.1～1922 vol.9 No.2) とその後続誌 Our Guidon (1923 vol.1～1946 vol.17) の記事 (Faculty News、Alumnae News など) から追跡調査を行うことができた。在籍期間と人物の特定ができた16名についてデータにまとめた。

研究実績の概要（2）

2. ハリソンの学校と卒業生たちの交流の整理

これらの留学生は、帰国後もハリソンの学校と継続的に交流を続けた。先に示したハリソンの学校の学内誌 **New Bulletin** とその後続誌 **Our Guidon** の記事（**Faculty News**、**Alumnae News** など）を調査したところ、日本からの留学生に関する特集記事や、留学を終えて日本に帰国した卒業生たちからの書簡が毎年のごとく掲載されている。これらの記事からは、ハリソンの学校と海外の卒業生たちの交流が読み取れた。管見では全 **55** 件の日本に関する記事を抽出できた。これらの記事をもとに、1890 年代から 1930 年にハリソンの学校と日本との交流の変遷について、ハリソン校長時代（1887～19191）とハリソン引退後のベーカー校長時代（1920～1939）の 2 期における人的交流について整理を図った。（ハリソンの学校は 1893 年 **Chicago Kindergarten College**、1912 年に **the National Kindergarten and Elementary College**、1930 年に **the National College of Education** と改称している。）

【得られた知見】

ハリソンの学校と日本からの留学生たちの交流からは、彼女たちの留学の目的が当時のアメリカの保育を持ち帰り、日本の幼稚園教育への移入と発展に寄与するだけではなかったことが見えてきた。それは、留学そのものを日米双方向による文化的交流の素地を生み出すプラットフォームとして、国際的視野から保母の育成を行うためであったことを示唆するものであった。彼女たちは帰国後も私的な文通や、**IKU** を介した組織的・公式な関わりを通じて、継続的に国際的な関係の維持に努めていた。ハリソンの学校に日本からの留学生が定期的に訪れた循環は、そのようなキリスト教ミッションと幼稚園教育の発展を担う女性同士によるトランスナショナルなネットワークに支えられていた。

【今後の課題】

今回検出できた 16 名の留学生が留学中の具体的な学びについては、現存の史資料からの調査では困難であった。彼女たちの成績表や詳細な授業記録が見当たらなかった。他方、ハリソンの学校の初期の時代の学生の授業時の制作物や、本学校の幼稚部や保育園に関する史資料は確認することができた。今後は現存する史資料の状況をさらに整理し、本学校における彼女たちの学びの内容を明らかにする努力を図りたい。

以上の内容については、2024 年度日本保育学会大会 5 月 11 日（土）にて報告予定である。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

小澤由理「保育者養成における留学の意義—戦前におけるエリザベス・ハリスンの学校と日本との交流—」2024年度日本保育学会大会発表要旨集・論文集 2024年5月

※2023年度の国際教育史学会 (ISCHE) ブタペスト大会での Yuri Ozawa, Namiko Kumata. 'Foreign Missionary Women Teachers and the Kindergarten Movement in Japan in the Early 20th Century' での報告をもとに、広島女学校のコロンビア大学留学の事例との比較をもとに、学術論文の執筆を行う予定である。